

# キャンパスグリーンデー

～居心地の良いキャンパスづくり～

夕暮れ時、キャンパス内で見かける人の影。それは老若男女問わない教職員の方や学生の姿で、それぞれが手にビニール袋を持ち、キャンパス内を歩いたり、集まって落ち葉を集めていたりしています。キャンパスクリーンデー。新潟大学で毎月行われる催しがここにあります。

## ◎ 始まりは草刈り隊

キャンパスクリーンデーは、財務部をはじめとする職員の方が、昼休みにキャンパス内の草刈りを行っていたことがその起源です。その名も“草刈り隊”。学校職員・キャンパス内の活動“草刈り隊”は、いつしか学生も参加し、地域住民の方も加え“キャンパスクリーンデー”(以下クリーンデー)として学外へも活動の輪を広げています。そんなクリーンデーに迫ってみました。

## ◎ クリーンデーの歴史

いつの頃からか、定かではありませんが草刈り隊が始動。そして今から3年ほど前、クリーンデーとして学生と近隣住民の方と共に清掃活動を行うようになりました。これはまだ年に1回夏をみの企画です。

学生へ毎月声をかけるようになったのは昨年。今年は4、8、1月に大きなイベントとして企画しています。クリーンデーでは草取りのほか、ゴミ拾いも行っています。

## ◎ クリーンデーができたわけ

クリーンデーが始まった理由を、社会連携研究センター教授の松原幸夫先生に伺ってみました。「今はキャンパスはゴミが少なく、毎日気持ちよく暮らしていると思いますが、4～5年前は、そうではありませんでした。キャンパスにはゴミも雑草も多く荒れた感じでした。ゴミがあるだけで、気持ちまで雑然とした気分になり、勉強もはかどりません。そこで私は『社会連携活動』の初めの第一歩として、足元のこのキャンパスを美しい住みよい場所にしようと考えました。

ゴミの問題は、地域の住民の皆さんと学生との共通の課題であり、トラブルの原因にもなりますが、地域と学生と大学が一緒になって取り組めるテーマでもあります。このゴミ問題のおかげで地元の自治会や、住民の皆さんとの交流も始まり、大変良かったと思います。学生の皆さんには、いつもクリーンデーに大勢参加していただき、ありがとうございます。」



社会連携研究センター教授  
松原幸夫先生



森田 薫夫

経済学部3年  
新潟大学学生ボランティア  
本部「ボランち。」

## キャンパスクリーンデーの参加者に話を聞いてみました

Q.いつのクリーンデーに参加しましたか？

A.2年生の夏です。

Q.なぜ参加しようと思ったのですか？

A.1年生の時クリーンデーの事を知って、その後「ボランち。」の関係で職員の方と話す機会があり、「やってみない？」とお声をいただき、「ボランち。」の数名と参加しました。

Q.実際やってみてどうでしたか？

A.その時は草とりを1時間位行ったのですがあっという間。全体の3割位しかできなかつたです。最初はあまり乗り気じゃ…けれどやっていくうちに「ここまでやるぞ！」と楽しみを見付けて(笑)。楽しかったです。

この時ふと思ったのは、職員学生含め、「大学にいる人が大学の掃除をすること」に意味があるのかなと。綺麗にするならプロの人に頼んだ方がいい。でもやるのは自分達。つまり綺麗にする事が目的ではなく、「自分たちでやる」事に意義があるのかなと思いました。

Q.最後に一言！

A.さっさと被りますが、自分たちの使っているところを自分たちで綺麗にすることって、自分に余裕がないとできない。だからそんな余裕を持てたらいいな。忙しい中にも、余裕を持って生活できるようにクリーンデーに参加して貰えたら。もしくはクリーンデーに参加する事で余裕が生まれれば良いなと、そう思います。

## ◎ クリーンデーの目指すもの

環境問題のとらえ方、キャンパスの見方など、これらは人それぞれ異なります。しかし、その中に「ゴミ」と言う一つの共通のモノを置くことで、異なる考え方を持つ人同士をつなぐ架け橋になるのではないのでしょうか。大学で得られるものは、知識や技術だけではなく、人と人をつなぐその中にこそ、重要な何かがあるように思います。あなたも、参加してみませんか？



◎クリーンデーは毎月第1火曜日の4限後に行われます。各学部で担当分けがされています。詳しく知りたい方は各学部学務係へ。4、8、1月に行われるイベントの詳細は社会連携研究センターへお問い合わせください。

## 新潟大学 社会連携研究センター

松原幸夫教授  
025-262-7599  
mailto:matubara@adm.niigata-u.ac.jp